ASSOCIAÇÃO CENTRAL NIPO-BRASILEIRA NOTÍCIAS E INFORMAÇÕES







世界の未来を、ブラジルとつくる。

[Business innovation-1]

旅客鉄道事業に参画、400万人の市民の足を担う。 オデブレヒト・トランスポート社と共に、都市交通インフラを整え、都市の発展に貢献。

[Business innovation-2]

水力発電事業により、CO2排出の少ないエネルギー開発を推進。 川の自然な流れを活かす流れ込み式水力発電事業を通じ、約1千万人分の電力を大都市圏へ供給。

[Business innovation-3]

ITを活用した教育事業で、次世代の人材育成に貢献。 オンライン教育事業のギーキー社に出資参画。一人ひとりの効果的な学びをサポート。

世界の未来を、世界とつくる。三井物産





MITSUI&CO.

日 次 カシアス・ド・スール [中妻由紀] ……………… 3

ブラジリアの近況 [佐藤 悟] …………… 5 【特集】動き出すかブラジル経済 テメル政権の経済改革

~期待と不安の交錯する 2017 年~ [岸本憲明] … 6

【特集】動き出すかブラジル経済 2017年に回復が期待される

ブラジル農·畜産業 [清水純-] …………… 8 【特集】動き出すかブラジル経済

まだら模様の経済復調 回復基調の産業事例 [美代賢志] … 10 連載・ブラジル現地報告

追悼アンドレア・トナッチ監督 [布施直佐] …… 12 日本思想史を研究するブラジル人学者が

米国で「ブラジル」を教えると [ペドロ・エルバー] 13

(ビジネス法務の肝)

ブラジルと日本の

連載★税務の勘どころ ブラジルの[のれん]の

償却メリットについて[片岡万枝] …… 15

(連載エッセイ)

40年目の修士論文 何故セラード開発を再考したか [國安真奈] ……… 16

(ウーマン・アイ)

ピロンにアカラ〜バイーア生活経験者が西アフリカを体験すると

(ジャーナリストの旅路) ラーメン戦争と日系社会 [辻修平] ………… 17

ブラジル社会論の古典『ブラジルのルーツ』 初版刊行80周年記念特別版の"衝撃" [岸和田仁] … 18

最近のブラジル政治経済事情 ······ 19 新刊書紹介 20

(びっくり豆知識)「「駐在員2世」が減っている。さあどうする?」・・・ 20 協会からのお知らせ ……………… 21



カシアス・ド・スール

葡萄ジュースよりもワインの方が安い街があ る。私が気に入った地物の白ワインは 4.5 リット ル 30 レアル。濃縮還元では無い、100%果汁の 葡萄ジュースは1リットル7~20レアル程で売 られているから、ワインの方が安いではないか! それもそのはず、ここカシアス・ド・スール市は 葡萄、そしてワインの一大産地。ワイン好きなイ タリア系移民が多く暮らす街だけあって、食卓に は昼間でもワインが並ぶ家も多い。ワイン醸造所

は至る所にある。この街 はブラジル最南端に位置 し、夏場は暑すぎず日照時 間が長いため、葡萄の生育 に適している。また、標高 800 m程度の高地にある ので昼夜の寒暖の差が大き



く、より甘い葡萄ができるのだ。街の至る所に葡 萄の木が植わっているし、葡萄農場を持っている 人も沢山いる。ここでは2年に1度、葡萄祭りが 盛大に開催される。100万人程度が訪れるとい うこの祭り、ワインや葡萄を扱う企業が沢山出店 していて、葡萄は食べ放題だという。残念ながら 2017年は開催年ではなく、次回は2018年2 月22日から3月11日にかけて開催される予定 なので、ワインや葡萄が好きな方は是非。

そして、カシアスの見どころは葡萄だけではな い。美しい教会が沢山ある。中でも一番有名で歴 史があるのは、サンペレグリノ教会だ。外観は真っ 白。門は重厚な銅製で、ひしめき合う船、人、馬 など、イタリアからブラジルへの移民を題材にし た彫刻がされている。イタリアの芸術家によって 作られ、ローマ教会から寄贈されたものだ。たか が門、されど門。 構想から完成まで 14年もかかっ た大作なのだ。重さはなんと7トンもある。それ ゆえ、その開閉にはモーターを使う。門だけでも 見に来る価値があると思う。内部は壁も天井も絵 で埋め尽くされており、イタリアのシスティーナ

礼拝堂を思い起こさせる壮麗さだ。 内部の絵は、イタリアの絵師を呼ん で描かせたものだそう。見渡す限り 美しい絵でいっぱいだが、教会奥の 天井に描かれた「最後の審判」は、 その絵の真下に立って見上げて欲し い。光り輝きながらこちらに迫って くるように見え、すごい迫力だ。

中妻由紀

(ブラジル日本交流協会 16 期研修生)

グローバル人材の採用なら

日経HRは、日本経済新聞グループの人材情報企業として、新卒向け就職事業、社会人向け 転職事業、キャリア教育事業をメインに展開しています。

日経HR独自の情報に加え、日本経済新聞社や日経BP社のコンテンツをベースに就職活動、 学び、スキルアップ、キャリアデザイン、転職などのHR(Human Resources) 情報を インターネットや出版、イベントなどのクロスメディア展開により発信していきます。

日経キャリアNET

社会人のための転職サイト。日本経済新聞や日経・電子版、日経BP社の各種 専門媒体を入り口としたビジネスに意欲の高い求職者と、人材を企業戦略の 中核と音識する優良企業を結びつけます。



キャリアコンサルティング(人材紹介)

エグゼクティブ、金融、IT系人材を中心に、人と企業をピンポイントで結ぶ人 材紹介事業を展開しています。日経キャリアNETや日経グループ各媒体との 連動やアライアンス・エージェントとの連携など、さまざまなご提案も行って



プロフェッショナル、エグゼクティブのための転職支援サービス







日経アジアリクルーティングフォーラム

アジア9ヵ国のTOP大生を日本へ招待し、面接できるイベントを毎年8月に開 催しています。2014年は北京大学、シンガポール国立大学、チュラロンコー ン大学、インドネシア大学等、103名が来日し30名が内定獲得しました。





日経メディアで複合プロモーション

日経新聞・日経電子版、日経BP専門媒体(雑誌・Web・メルマガ・フォーラム) を活用した日経メディアの複合プロモーションで人材採用活動をお手伝いしま









仕事の先の幸せを創造する会社



お問い合わせ 株式会社日経HR TEL:03-6812-7307 e-mail:webeigyo@nikkeihr.co.jp https://www.nikkeihr.co.jp

ブラジリアの近況

ブラジルに着任して3ヶ月が経とうとしている。 今ブラ ジリアは真夏。緑豊かな広がりにニーマイヤーの白い近代建 築が映える。陽射しは強いが、高原のため気温はあまり上が らない。午後になると、激しい雨が降る。週末にはパラノア 湖にヨットの帆やボートの白波が浮かぶ。その湖に向けて白 球を打つのは快感である。クリスマスからカーニバルまでは 夏休みシーズンで物事は動かないと聞いてきたが、その割に は 1 月からテメル大統領への信任状捧呈や閣僚等への表敬訪 問が次々に実現している。

最悪期は過ぎ去った!

"O pior já passou." これは最近の当地経済誌の表題であ るが、ブラジリアの人々の実感でもある。昨年はリオ・オリ ンピック・パラリンピックという華やかな国際イベントの一 方で、ルセーフ大統領の弾劾、汚職捜査の進展、2年連続の 大幅なマイナス経済成長というブラジルにとって未曾有の危 機に見舞われた。危機の中で、昨年8月末、テメル政権が正 式発足したものの、ラヴァ・ジャット汚職捜査に伴う様々な 情報や憶測が飛び交い、また各種の経済指標も経済の減速を 告げるものばかりで、どこまで落ち続けるのか分からない、 フリーフォールに近い感覚があった。しかし、ここ最近になっ て政治の安定、経済の回復に向けて人々が手応えを感じるよ うになってきた。

2017年はブラジル復活への礎石を築く年になる

テメル政権は、13年に亘る労働者党政権による「イデオ ロギー重視のバラマキ政策」が危機を招いたとの反省から、 「新しいブラジル」を掲げて、財政規律の回復、構造改革の 推進、開放的な通商政策へと大きく舵を切った。これまでに 財政支出に上限を設ける憲法改正案が成立したほか、受給開 始年齢を65歳に統一する年金改革案、政党数を削減する政 治改革案、労働者過保護を是正する労働法制改革案等につい て、2月からの議会で本格的に審議が行われる。

経済危機からの早期脱却のために、インフラ投資促進策や 石油開発自由化措置等の改革も進めており、ビジネス環境改 善に関する在伯日本企業の提言(AGIR)を実現するチャン スでもある。テメル政権を支える連立与党は上院・下院とも 3分の2を超える多数を占め、新しい上院議長・下院議長に 大統領に近い改革推進派が選出された。紆余曲折は予想され るものの、改革の着実な進展が期待されている。

経済見通しについては、インフレ収束を受けて政策金利が 継続的に引き下げられており、今後投資の増大が期待される。 原油や鉄鉱石の国際市況の回復、農産物の収穫と輸出の好調 などから、今年の第1又は第2四半期には底を打ち、今年 は 0.5%程度のプラス成長が見込まれている。

明年秋には大統領・議会選挙があるので、連立与党が結束 して法案審議に当たれるのは今年末までと見られるところ、 今年がテメル政権にとって、また、ブラジルの将来にとって 正念場となろう。

ラブコールにどう応えるか

最近特に感じるのは、日本に対する熱いラブコールである。 1月19日、テメル大統領は、信仟状捧呈式において、昨年 10月の訪日は大変良かったと上機嫌で振り返りつつ、4月 の日伯賢人会議と5月のジャパン・ハウス開所式には是非参 加したい、2018年の日本人移住110周年も共に祝いたい 等と述べ、我が国との関係促進に強い意欲を示された。また、 経済外交を重視するセーハ外務大臣も、日本との関係は最優 先事項であると強調している。

そのような中、2月2日、伯産業貿易省は、メルコスール と日本及び韓国との自由貿易協定交渉について民間企業の意 見を聞くパブリック・コメントの開始を発表。それに先立つ 伯亜貿易大臣会合において、メルコスール市場統合の促進と、 「EU(既に交渉中)及び EFTA(最近交渉開始)との FTA 交渉を優先的に行うとともに、日本、カナダ、アジア太平洋 諸国との貿易関係を緊密化する」との方針が確認された。

日本重視の背景には、我が国が従来からブラジルにとって 信頼できるパートナーであったことに加え、最近の国際環境 の変化がある。トランプ政権誕生で保護主義的になった米国 や、英国の EU 離脱と排外主義政党の台頭に揺れる欧州にあ まり期待が持てない中で、自然とアジア太平洋地域に目が向 くが、既にブラジル経済に大きな影響力を持つ中国にこれ以 上依存し過ぎてはいけないとのバランス感覚も働く。

ブラジルからの熱いラブコールにどう応え、今後の日伯関 係をいかに進展させていくべきか。これは、我々官民関係者 にとって共通の宿題であると思う。 (2月7日記)

佐藤 悟 (駐ブラジル日本国特命全権大使)

テメル政権の経済改革 期待と不安の交錯する2017年



岸本憲明 (海外投融資情報財団(JOI))

2016年、ルセフ大統領が弾劾裁判に よって8月末に罷免され、さらに10月 の地方選挙で同大統領の属する労働者党 (PT) が壊滅的敗北を喫したことで 13 年半に亘った PT の治世に幕が降ろされ た。副大統領から昇格したテメル大統領 (ブラジル民主運動党; PMDB) は未曽 有の不況下で持続可能な財政の確立と投 資環境の改善を最優先課題に掲げて精力 的に政策を打ち出しているが、5月に暫 定政権として発足してから年末までの半 年で6人の閣僚が汚職等の嫌疑で辞任 を強いられ、また大統領自らの立場も安 泰とは言えないなど政治基盤は極めて不 安定である。

2016年-最悪期は脱出したものの 問題は山積

第3四半期の実質 GDP 成長率(前年 同期比) は▲ 2.9%と 10 四半期連続マ イナスを記録、需要項目別にみても総固 定資本形成は10四半期連続、個人消費 は7四半期連続、政府支出は6四半期 連続でマイナスとなった。15年第4四 半期の▲ 5.8%をピークに以降マイナス 幅は徐々に縮小しており、その意味で底 打ちが近づいていることを予感させるも のの、2016年通年では2015年の▲ 3.8%に続いて3.5%程度のマイナスに

: なる見通しである(2年連続のマイナス: 成長は 1929-30 年以来)。 背景には内 需の激しい落ち込みがある。

テメル政権がとくに注目するのは財政 の悪化振りである。この 20 年、公的支 出の伸びはコンスタントに経済成長率 を上回っており、14年には基礎的収支 がついに赤字(GDP比 0.6%)に転じ、 16年は2.5%に拡大する見込み。総合 収支もここ数年赤字が急拡大、15年に は GDP 比 10.4%に達し、16 年も 9% 近い赤字が見込まれる。その結果、公的 債務/GDP比も上昇に歯止めがかから ず、16年には70%に達した模様。

失業率も 15 年から急上昇し、16 年 末には 12% (1,200 万人強) に達した。

唯一の明るい材料はインフレ率が 16 年1月(10.7%)をピークにその後、 大方の予想を超える低下を示し、16年 は6.3%と中銀のインフレターゲットの 許容範囲(4.5% ± 2.0%)に収まった ことである。中銀の政策金利も15年7 月から1年余に亘って14.25%で据え 置かれてきたが、インフレの予想外の沈 静化を受けて10月、11月と利下げの サイクルに入った。

テメル政権の経済改革の方向性― ドラスチックな政策シフト

ポピュリズム的財政政策と経済への国

表1 主要マクロ経済指標 (単位:%)								
		2012年	2013年	2014年	2015年	2016年		
実質GDP成長率		1.9	3.0	0.1	-3.8	-3.5		
消費者物価上昇率		5.8	5.9	6.4	10.7	6.3		
失業率 (年末)		6.9	6.2	6.5	9.0	12.0		
財政	総合収支/GDP	-2.3	-3.1	-6.2	-10.4	-8.9		
	基礎的財政収支/GDP	2.4	1.8	-0.6	-1.9	-2.5		
公的債務/GDP		53.7	51.5	56.3	65.5	69.5		
政策金利 (年末)		7.25	10.0	11.75	14.25	13.75		
diam's	10部・プラスト 中中州公は大							

家介入が経 済の激しい 落ち込みを: 招いたルセ フ政権の反 省に立ち、 2015年に 失った投資 適格を取り

目標に、短期の即効的景気回復策よりも 長期的な構造改革に軸足を置き、持続可 能な財政の確立と競争力の強化を柱とす る施策に取り組んでいる。

(1) ハイライトは何といっても憲法を改 正して歳出の伸びに20年に亘る上限 (キャップ)を設定したことである。

(12月13日の上院本会議で憲法改正 案が最終承認、15日発効)。本改正は 2036年までの20年間、利払いを含ま ない連邦歳出の伸びを前年のインフレ率 の範囲内に抑える、すなわち歳出を実質 ベースで2016年レベルに固定せんと するもの。前例のないショック療法であ り、種々批判はあるが歴史的な一歩と いえよう。2027年以降の10年につい ては上限設定方式を再検討ことになって いる。ブラジルの歳出構造は憲法・法律 で定められた義務的支出が9割を占め、 さらにその4割が社会保障費であるこ とから極めて硬直的となっている。

(2) 歳出キャップの実効性を確保するた めには財政改革の本丸ともいうべき社会 保障(特に年金制度)にメスを入れるこ とが不可欠であり、政府は12月6日、 年金改革案を議会提出した。老齢退職年 金の受給開始年齢を 25 年以上の納付を 要件として男女一律、官民一律65歳と する (現在の平均的退職年齢は54歳)。 本年の議会で審議される予定であるが、 国民の生活を直撃するものだけに難航が 予想される。

(3) 競争力強化に向けた基盤創りの施策 としては、2017年にはビジネスコスト の引き下げに向けて硬直的な労働慣行 (12月22日改革案提出済み)、複雑極 まる税制の改革にも着手する意思を示し ている。また9月に発表した Program for Partnership and Investment (PPI) のもと、供給サイドの深刻な制約となっ 戻すことを: ているインフラ事業について大規模な民

営化・コンセッションを推進するとして: ため 17年の重要な課題である。 いる。国家管理のもとにあったインフラ 事業に内外の民間セクターから多様なプ レーヤーを取り込むとの方針である。

2017年-持続的成長の 基盤構築に向けた正念場

2017年の成長率見通しについては、 昨年、テメル暫定政権の発足を機に期待 先行の形で各種機関が予測値を引き上げ たが、9月をピークに年末にかけて下方 修正を行った (図1)。中銀が毎週発表す る市場コンセンサス予想は1月に入っ て 1.0%から 0.5%へ、IMF は 0.5%か ら 0.2%へ引き下げるなど、厳しい見方 をしている(ちなみに政府の現在の公式 見通しは1%)。要すれば、辛うじてマ イナス成長を回避できるかという程度で ある。

前記の財政改革が成立しても即効性は 望み得ない。基礎的財政収支の黒字化に は4年ほどかかると見られ、公的債務 の安定化に必要な GDP 比 3%以上の黒 字達成はさらに数年先といわれている。 また公的債務/GDP比も試算によれば 安定するのは 2020 年ごろ、その後よ うやく極く緩やかな下降線を描く(図2)。

中央政府の財政に加えて昨年から大き な話題となっているのが州財政の破綻問 題(とくに RJ、SP、RS、MG 州)。赤 字拡大で連邦への債務返済に支障をきた している。連邦政府は緊縮策採用を条件 に最長3年間の債務返済猶予等の措置 を各州と合意しているが、この問題への

民間企業も多大な債務を抱え、信用 調査機関 Serasa Experian によると、 16年は15年(1,287件)の45%増 にあたる 1.863 件の破産保護申請が あった(過去11年で最高件数)。2017 年もさらに増えるとみている。企業の投 資回復はしばらく時間がかかるであろ う。失業率も17年半ばころまでは上昇 を続けると見込まれている。実体経済は すぐには動かない。回復の道のりは一直 線ではなく、かつかなり緩慢なものとな らざるを得ない。

2016年に目標圏内に収まったインフ レ率はターゲットの中心値(4.5%)近 辺まで低下が見込まれている。それを先 取りする形で政策金利も 1 月に 13.0% まで一気に0.75ポイント引き下げたが、 年末までに一桁台も視野に入ってきてい る。なお、2017~18年のインフレ目 標は 4.5% ± 1.5% と許容幅の縮小がす でに決まっている。

利下げのスピード、年金改革、労働法・ 制・税制等ブラジルコストの緩和、イン フラの民営化、州財政問題への取り組み 一 これらが長期・持続的な成長基盤創 りの試金石となろう。

テメル政権は 改革を完遂できるか

ドラスチックな財政改革と競争経済へ の移行という、困難ではあっても避けて は通れない、ブラジルの宿痾ともいうべ き構造問題に果敢に切り込んでいく姿勢 は評価してよいが、その成否はテメル大: 挙が近づくにつれ現在議会の過半数を 対応は連邦財政にも多大な影響を及ぼす :: 統領が任期(~2018年末)を全うで :: 占める連立与党の議員も不人気な政策

きるかにかかっている。最後に、その可 能性について整理しておきたい。

ペトロブラスを舞台とする汚職捜査の 収束が見えないなか、汚職スキャンダル で主導的役割を果たしたラ米最大手の建 設会社オデブレヒト社が 12 月初に検察 と過去最大規模ともいわれる司法取引に 合意、前 CEO をはじめ 77 人の役職員 が贈賄の全容について供述を行うことと なった。すでに一部がリークされている が、連邦最高裁は1月末にこれら証言 を有効と認定した。有力政治家のほとん どを網羅していると見られ、潜在的に大 きな破壊力を持つ。

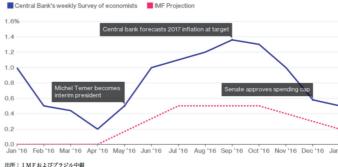
2014年大統領選挙のキャンペーン資 金(の不正の有無)を調べている高等選 挙裁判所 (TSE) が同選挙の結果そのも のを無効とするカードを切るか否か、上 半期中にも最終判断を下す。司法取引で の幹部の証言とTSEの判断、この二つが テメル政権にとって上半期最大のリスク といえよう。任期の残余期間が2年を 切ったこの時点で退陣を余儀なくされた 場合の新大統領の選出は国民の直接選挙 ではなく議会が大統領を選出することに なっているが、展開次第では再び大きな 政治空白が生まれることが懸念される。

決して安泰とはいえないテメル政権 は、改革推進と政権維持の厳しい板ばさ み状態で国家運営を強いられるが、2月 初の上下両院議長選挙(任期2年)で 両院ともテメル支持派が議長に選出され たことは、今後の法案の議会審議におい て大きなプラス要因にはなろう。

2018年10月の大統領・連邦議会選

から距離をおくよ うになる可能性が ある。その意味で 少しでも早く目に 見える成果(年金 改革の成立等)を 挙げることが肝要 であり、時間との 競争ともいえる。 (2017年2月6日)





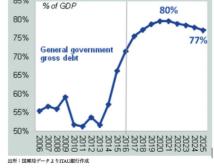


図2 公的債務 (GDP比) の推移 (2006~2025年)

6

2017年に回復が期待される ブラジル農・畜産業

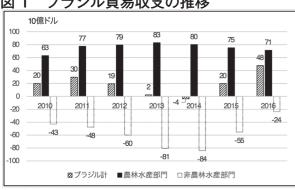


(農林水産政策研究所)

1. はじめに

ブラジル経済のなかで、農林水産部門 は大きな比重を占めている。それが典型 的に現れているのが貿易収支である。図 1で2010年以降の貿易収支をみると、 全体の収支は2014年を除いて黒字で ある。しかし、非農林水産部門は恒常的 に赤字であり、農林水産部門の黒字がそ の赤字を相殺して、全体としての貿易収 支が黒字になるという構造になってい る。いかに、農林水産部門がブラジル経 済にとって重要な位置にあるかがこれで わかるだろう。

図 1 ブラジル貿易収支の推移



出所:ブラジル農務省資料より筆者作成。

とはいえ、農林水産部門の貿易収支は 2013年の830億ドルをピークとして 3年連続で減少している。農林水産部門 の輸出金額構成をみると、2016年の輸 出金額849億ドルのうち、1位が大豆 関連製品(大豆・大豆油・大豆ミール) の 28.8%、2位が食肉の 16.1%で、こ の二つで44.9%を占めている。したがっ て、2017年の農林水産部門の貿易収支 を占ううえで、これら2品目の輸出動向 が焦点になってくる。

大豆関連製品輸出金額のうち、大豆 は76%を占めている。よって、本稿で は大豆と食肉(牛肉・豚肉・鶏肉)、ま た輸出に占める割合は4.1%と低いもの: つによる単収の低下(32.2%減)の影: 表には掲載しなかったが期末在庫量も

の、後に述べるように穀物生産において: 大豆と並んで大きな比重を占めているト ウモロコシを取り上げて、生産と輸出の 動向について関係機関の見通しを紹介す ることにする。

2. 穀物部門

ブラジルの穀物生産は順調に推移して きており、国家食料供給公社(Conab) の統計によれば、2014/15年度は2億 777 万トンと史上初めて念願の2億ト ンを突破した。しかし、2015/16年 度は前年度より 2,147 万トン減の 1 億

> 8.630 万トン(対前年 比 10.3%減)と直近4 年間で最低の水準に低 下した。ブラジルの穀 物生産量の内訳をみる と、大豆とトウモロコ シで生産量の87%を占 めている。そこで、両 者の動向をみると、ま ず2015/16年度の大 豆生産量は対前年度比 79トンの減少(0.8%

: 減)と軽微であった。しかし、トウモロ コシ生産量は大幅に減少した。生産量 は前年度の8,467万トンから6,669万 トンへと 1,798 万トン減(21.2%減) で、穀物合計の減少分 2,115 万トンの 83.7%を占め、トウモロコシが穀物生 産減少の主犯であることがわかる。

実はブラジルのトウモロコシには 10: ~ 12月に植える第1作と1~3月に 主として大豆収穫後の同じ畑に植える第 2作がある。2016年には両者とも減産 したが、詳しく見ると要因は異なる。第 1 作の場合は、大豆への転換による作付 面積の減少(12.3%減), 第2作は干ば

響が大きい。第2作の最大の生産州で あるマットグロッソ州では単収が34% も低下した。この生産量の減少により、 2015/16市場年度(2016年2月~ 2017年1月)の期末在庫量は前年度 末の 1.040 万トンから 798 万トンへ 23%低下する見通しである。2016年 のトウモロコシの減産は国内価格の上 昇をもたらし、飼料としてトウモロコシ を消費している畜産部門の生産コストに 影響を及ぼした。コンサルタント会社の IEG-FNP によれば、2016 年のトウモ ロコシ平均価格の上昇率は45.3%にも 達した。2015/16年度のトウモロコシ 輸入量が150万トンと前年度の32万 トンから4倍以上に増加したのもこの影 響と考えられる。また、国家バイオセキュ リティー専門委員会 (CTNBio) が米国 産の遺伝子組換えトウモロコシの輸入を 許可したため、作柄によっては輸入依存 率が高まる可能性もある。

しかし、2017年1月10日に発表さ れた Conab による 2016/17 年度第 4 回目の最新見通しによれば、2016/17 年度の穀物生産は明るそうである。この 見通しをまとめた表1をみると、大豆生 産量は8.7%と伸びは低いものの、1億 378 万トンと 1 億トンの大台に初めて 乗るとみられている。この結果、輸出量 も 5.700 万トンと史上最高になるとみ

トウモロコシ生産量も第2作が 37.7%の伸びで全体としては8,448万 トンと、ほぼ 2014/15 年度の生産量 水準に回復する見込みである。これによ り、輸出量も 2015/16 年度の 1.800 万トンから 2,400 万トンにまで回復す る見込みであるが、過去最大の輸出量で あった 2014/15 年度の 3,017 万トン と比較すると、まだ8割の水準である。

払物の目 涌し

グル地し			(単位: 1,000 1/2)		
	2014/15	2015/16	2016/17	増加量	伸び率
生産量	96,228	95,435	103,778	8,344	8.7%
輸出量	54,324	51,591	57,000	5,409	10.5%
生産量	84,672	66,571	84,480	17,909	26.9%
輸出量	30,172	18,000	24,000	6,000	33.3%
	生産量 輸出量 生産量	2014/15 生産量 96,228 輸出量 54,324 生産量 84,672	2014/15 2015/16 生産量 96,228 95,435 輸出量 54,324 51,591 生産量 84,672 66,571	2014/152015/162016/17生産量96,22895,435103,778輸出量54,32451,59157,000生産量84,67266,57184,480	2014/15 2015/16 2016/17 增加量 生産量 96,228 95,435 103,778 8,344 輸出量 54,324 51,591 57,000 5,409 生産量 84,672 66,571 84,480 17,909

出所:国家食料供給公社(Conab)資料。

注:2016/2017年度は見通し。増加量と伸び率は2016/17年度と前年度の比較。

食肉の貝通し

X Z RV	小りた通り			(単立: 1,000 1/2)		
		2015	2016	2017	増加量	伸び率
牛肉	生産量	9,425	9,284	9,470	186	2.0%
十內	輸出量	1,705	1,850	1,950	100	5.4%
	生産量	3,519	3,710	3,825	115	3.1%
豚肉	輸出量	627	900	940	40	4.4%
响内	生産量	13,146	13,605	14,080	475	3.5%
鶏肉	輸出量	3,841	4,110	4,385	275	6.7%

出所:米国農務省 (USDA) 、Livestock and Poultry: World Markets and Trade

注:2017年は見通し。増加量と伸び率は2017年と前年の比較。

見诵しである。

この結果、穀物全体の生産量は 15.3% 増加し、2億1.527万トンと史上最高 の生産量になる見込みである。

3. 食肉部門

食肉部門も 2017 年の見通しは明る いが穀物ほどではない。食肉は総需要量 のうち、内需比率 ((国内需要量/(国 内需要量+輸出量)) が穀物に比べて高 いので、経済の回復が遅れて、家計消費 の伸びが抑制された場合、より鮮明に負 の影響が出てくる恐れがあるからであ る。ちなみに、牛肉、豚肉、鶏肉、トウ モロコシ、大豆の内需比率はこの順番に、 87%、79%、69%、65%、44%である。 穀物のうち、トウモロコシは比較的内需 比率が高いが、これは豚肉・鶏肉の飼料 用需要が多く、これらの需要と連動して 内需比率が高くなっているとも考えられ る。大豆ミールも一般的には牛の重要な 飼料源であるが、ブラジルの場合、依然 として放牧して牧草を食べさせて肥育す るグラス・フェッドが主流のため、飼料 としての需要が限定的になっている。し たがって、国内経済の回復ペースが遅れ た場合、食肉業界としては輸出に頼らざ るをえないことになる。

この点、食肉輸出全体として明るい面

1.286 万トンと過去最高の水準になる : では、2015 ~ 2016 年にかけて、従 来動物検疫の問題で輸出ができなかった 国との間で輸出再開交渉がまとまり、新 たな市場が生まれたことがあげられる。 2017年にもこの効果が継続して、輸出 の増加が期待されている。以下、表2に まとめてある USDA の見通しを参考に しながら食肉部門の2017年の見通し を紹介していくことにする。

> まず、牛肉であるが、2017年の生産 量は拡大が見込まれている。これは旺盛 な輸出需要とおよそ7周年と言われてい るキャトルサイクルが2016年に底を 打ったとみられているためである。輸出 をみると、現在最も需要が伸びている 中国への輸出が2015年に再開された のを始め、2016年には米国との交渉が まとまるなど、市場が拡大した効果で 2016年の輸出量は対前年比8.5%増に なった。USDAによれば、中国は今や 米国に次ぐ牛肉消費国であり、2012~ 2016年の間に世界の牛肉消費量は中国 を除くとマイナス成長であったのに対 し、中国の消費量はこの間に15.1%も 増加している。この見通しでは、中国へ の輸出拡大により、ブラジルはここ数年 インド、豪州と争っていた牛肉輸出量の 競争で 2017 年には 2013 年以来 4年 ぶりに1位の座を奪還すると予想されて いる。

次に豚肉である。2016年は豚肉に、ていると言えよう。

とって明るい年となった。中国の輸入 禁止の解除なども影響し、2016年の豚 肉輸出量は90万トンと前年の62.7万 トンから大幅に増加した。中国は2016 年に日本を抜いて世界最大の豚肉輸入国 となり、2017年もこの傾向が続くと期 待されることからブラジルの豚肉輸出も 堅調に推移するとみられている。

最後に鶏肉である。上述したようにブ ラジルの鶏肉は食肉の中で比較的輸出比 率が高く、生産量のうち3割以上が輸出 向けであるのでブロイラー産業にとって は輸出の拡大が生命線になっている。ブ ラジルの強みは世界最大の鶏肉輸入地 域である湾岸協力理事会(GCC)で高 い輸出シェアを持っていることである。 GCC は中東6カ国(サウジアラビア、 アラブ首長国連邦、バーレーン、オマー ン、カタール、クウェート)で構成され ている。表2が依拠している USDA の レポートによれば、GCC への世界の鶏 肉輸出量は過去10年間で2倍以上に なっている。この成長市場でブラジルは 80%のシェア(2015年)を持ち、2 位の EU の 10%を大きく引き離してい る。GCC の中でも最大の輸出先はサウ ジアラビアである。ただし、先に述べた ように、中国の市場へのアクセスが改善 されたため、やはり USDA はブラジル にとって2017年に最も成長する輸出 先が中国になると見込んでいる。

4. おわりに

繰り返しになるが、2017年のブラジ ル農・畜産業は生産、輸出とも伸びが期 待される。輸出を牽引しているのは相変 わらず、中国の旺盛な需要拡大である。 しかし、従来はブラジルの中国への農産 物輸出と言えば、ほとんど大豆という印 象であった。しかし、近年は本文中に説 明したように、中国への食肉輸出が解禁 され、食肉輸出も増加する見通しになっ ている。ブラジルの農産物輸出は中国へ の依存傾向がますます強まる状況になっ

8 9

回復基調の産業事例

美代賢志 (ニュース速報 DB 「B-side」運営)

ブラジル経済回復?

政財界は2016年下半期からブラジ ル経済が持ち直し始めると予想してきた が、そうした期待は外れ、ブラジル地理 統計院 (IBGE) は 2016 年第3 四半期 の GDP 成長率が前期比- 0.8%だった と発表した。7四半期連続のマイナス成 長だが、それでも一部の業界は明るい見 通しを持っているのも事実だ。

まだら模様の経済復調

IBGE の最新の統計によると、2016 年第4四半期の失業率は12.0%、年間 の平均失業率は11.5%に上昇したとす る継続的全国家庭サンプル調査(Pnad Continua)の調査結果を発表した。こ れに伴い家計消費も減少でおり、国内消 費は冷え込む一方だ。

もっとも、一方でニールセンの調査に よると、被服や電子機器などでは「ブラ ンド品」に対してブラジル人の 40%が 購入意欲を失っていない。この理由は、 新興中産階級が生まれているブラジルの ような国では、ステータスを示し自信を 差別化することが重要だと消費者が認識 している表れだという。とはいえ家計支 出の削減に対する圧力は強く、小売業界 ではアタカレージョ(小売兼業卸の倉庫 店)が業績を大きく拡大させている。ま たブラジル衛生・香水・化粧品工業協 会 (Abihpec) によると、これまで不 況知らずできたブラジルの美容品業界も 厳しい状況が続いており、投資の再開は 2018年以降になるという。小売業で は、ブラジル・スーパーマーケット協会 (Abras) のデータを見る限り、月間売 上を前年同月との実質成長率で見ると、 2015年2月から下落し同年4月には マイナスに転じたが、2016年5月を 最後にマイナスは記録しておらず最悪期 を乗り切ったように思われる。

このように、国内市場では消費が回復 に転じ始めてはいるものの、製造業では

国内市場よりも、輸出依存度の高い業種: や国際相場が値上がりしているコモディ ティー分野が中心になって景気の回復を 牽引していくと見られている。例えば前 述の美容品業界では、国内市場では未開 拓なことから2桁成長を記録している 男性化粧品市場が存在する。しかしこ うした市場を横目に、2015年に前年比 19.1%の伸びを記録した中東市場への 輸出など、国外市場を視野に入れて事業 展開を図っている。

輸出堅調な産業例

輸出が堅調な業種には、例えば製靴業 がある。製靴業界は2016年、前年比 1.7% 増となる 1 億 2.612 万足の靴を 輸出した。金額ベースでは、前年比4.0% 増の9億9.900万ドル。2016年第4 四半期から輸出に勢いが出て、12月だ けを見ると前年同月比7%増の1,800 万足を輸出した。金額では、1億2,800 万ドルになる。ブラジル履物工業協会 (Abicalcados) は、為替の安定と国際 見本市へのブラジル企業の参加といった 要因が輸出を後押ししているという。堅 調な輸出を背景に、業界の雇用はリセッ ション前の水準まで回復した。

ブラジル製靴の主な輸出先はアメリカ で、前年比+15.4%の2016年は1.324 万足、2億2.136万ドルを輸出した。 続いてアルゼンチンに 948 万足、1 億 1.160 万ドルを輸出。アルゼンチンへ の靴輸出の伸びは、前年比+65.4%に も達する。さらに3位のフランスには、 前年比+2.1%の900万足、5,600万 ドルを輸出した。

一方で、国内の小売市場は、産業マー



ケティング分析研究所(lemi)の推計に よると、2014年の7億6,488万3.000 足から減少傾向で、2016年には、6億 6.381 万 9.000 足まで減少した。ただ し2017年には6億7.337万2.000 足に回復しそうだという。また国内生産 も 8 億 0.841 万足へ前年比+ 3.3%、 金額ベースでは 324 億 9.000 万レアル と前年比+9.5%を見込む。だが、生産 量はピークだった2004年の9億1.600 万足を大きく下回っているのが現実だ。 そして生産が回復する中で輸出の比重が 高まっており、業界の回復に外国市場が 重要性を高めていることは間違いない。

農畜産部門では

また同様に世界最大の鶏肉輸出国と なっているブラジルでは、2016年の 鶏肉輸出が前年比+ 1.9%で過去最高の 438万4.000トンを記録した。ブラジ ル動物蛋白協会(ABPA)が商工サー ビス省貿易局 (Secex) のデータを集 計して発表したもので、金額ベースでは 国際相場の下落に伴い前年比-4.5%の 68 億 4.900 万ドルにとどまった。不況 のあおりで牛肉消費が減少して鶏肉にシ フトする動きもあるが、飼料となるトウ モロコシの凶作と値上がりで鶏肉の国内 価格も値上がりしている。このため業界 は、ハラール(イスラム圏向けに適切な 処理が施された食品)市場を含め、輸出 先の開拓に努めている。

ただし2016年の農業分野の輸出額は 前年比-4%となる850億ドルにとどまっ ている。商工サービス省貿易局(Secex) のデータを農牧食料供給省が独自に集計 して発表したもので、輸出全体に占める 農産物の比重も、2015年の46.2%か ら 2016 年は 45.9%に縮小した。

なお全国肥料普及会(Anda)による と、世界的な供給の拡大とレアル高を背

景に、2016年にブラジル国内の肥料市 場は、前年比+12.9%という成長を記 録し、過去最高の 3.408 万 3.000 トン 市場に拡大した。ただし国内生産は前年 比-1.3%の900万トンで、輸入品が多

くを占めている。だが農業生産現場にお ける肥料の利用拡大は、国内の農業生産 性の拡大につながると期待されている。

石油関連では

一方で、同じコモディティーでも石油 と鉱物資源は堅調だ。2月1日に商工 サービス省 (MDIC) が発表した 2017 年1月の貿易収支統計によると、月間の 輸出額は 149 億 1,100 万ドル、輸入額 は 121 億 8,700 万ドルで、27 億 2,500 万ドルの黒字を計上した。1月としては、 28 億 3,500 万ドルを計上した 2006 年以来の大きな黒字という。営業日1 日当たりの輸出は、前年同月比 20.6% 増と堅調で、MDIC のレポートによると、 大豆輸出の前倒しや、アルゼンチンを中 心に自動車及び道路機械の輸出が拡大し たこと、コモディティー相場の値上がり などが影響したという。例えば鉄鉱石の 場合、国際相場が前年同月比 113.8% 値上がりしており、その影響で輸出額も 124.5%拡大した。石油も同様に相場が 53.3%値上がり、さらに輸出量も29% 拡大して輸出額は97.7%増加した。

原油相場の値上がりは、単に貿易収支 の黒字を押し上げているだけでなく、業 界の投資にもつながっている。ラヴァ ジャット作戦の影響で国営石油会社ペト ロブラスの投資は低調だ。しかし、ブラ ジル国内で石油開発鉱区の利権を保有す る外資系石油会社が、石油探査に向けた 投資を再開し始めているのだ。原油相場 が下落し始めた2014年から国内では 比こそー13.2%と落ち込んだが前年同

新たな油井の掘削が行われてこなかった が、トタルとスタトイルが探査を再開す ると発表済みだ。この外にも、サントス 堆積盆地で埋蔵石油資源を発見した力 ルーンが、発見済みの埋蔵資源に対する 評価を進めるためにさらに2本の油井 を掘削する。

Anfavea(全国自動車工業会)

自動車業界は

年末年始に評価が大きく変化したの は自動車業界だ。全国自動車工業会 (Anfavea) によると 2016 年 12 月に 自動車生産台数(乗用車と小型商用車、 トラック、バスを含む)が前年同月比 + 40.6%を記録。これを受けて業界の 復活への期待を高めた。輸出も、2016 年は前年比+24.7%と堅調だった。だ が自動車ディーラー連盟(Fenabrave) によると新車登録台数は年明けには過去 11年で最悪で前年同月比-5.18%と なる 14万 7.200 台にとどまった。こ のため、国内の自動車市場が回復するに は、まだ時間が必要と見られる。

12月の増産は、部品メーカーとの関 係がこじれて生産計画に狂いが生じてい たフォルクスワーゲン(VW)が、通常 のペースで生産に復帰したことに加え、 年末年始の販売に関連して、ディーラー が容認できる水準で在庫を拡充しディー ラーを訪問した顧客を確実にキャッチ アップして他社に流れるのを防ぐという 戦略によるものだと見られている。なお、 2月6日に Anfavea が発表した最新統 計によると、2017年1月の国内の自 動車生産台数は17万4,064台で、前 月比では落ち込んだものの前年同月比で は+17.1%と堅調だった。さらに輸出 は、8億0.980万7.000ドルで、前月

> 47.9%と大: 幅に伸びて いる。この ように統計 からは、輸 出が国内自 動車生産を立する。

月比では+



支えていることが示された。

トランプ政権の影響~ 貿易協定の見直し

その一方で自動車業界では、年末休暇 から復帰したばかりのゼネラルモーター ズ・ド・ブラジル (GM) が、2月13日 から20日の集団休暇を実施する。対象 となる工場で GM はピックアップトラッ クを製造しており、メキシコを中心に堅 調な輸出を背景に2016年に増産を進 めてきた。だが、そのメキシコ市場では、 アメリカ大統領にドナルド・トランプ氏 が選出されたことなどからアメリカ製品 への非買運動に発展している。GM の集 団休暇は、こうした非買運動の影響によ る販売不振が理由と見られている。

このように、アメリカでトランプ政権 が発足した影響が早速ブラジルの工業部 門にも波及した形であるが、全体として 見ると、政財界はブラジルとアメリカの 関係を楽観視している。環太平洋戦略的 経済連携協定(TPP)に関連してブラ ジル国内では「乗り遅れた」という認識 が強かったが、アメリカの離脱はむしろ 渡りに船という認識だ。アメリカとの2 国間貿易協定に道が開けただけでなく、 TPP への加盟を表明している日本など とも、2国間協定につなげる方向で連邦 政府は動き出している。

第1弾としてMDICは、2月2日か ら60日の期限で、日本と韓国との貿易 協定を想定し財界関係者らから意見招請 を行っている。これによりブラジル側が 攻めるべき点と守るべき点をあぶりだす 作業を進める。別の言い方をすれば、国 際的なバリューチェーンにブラジルを組 み入れる中で、日本製品と韓国製品に対 する関税を引き下げた場合、マイナスの 影響を受けるブラジルの経済分野を判定

自動車業界の推移 1 200 0 350.0 1 000 0 300.0 800.0 250.0 製造台数 200.0 150.0 ---輸出額(100万ドル) 新車登録台数(1,000台) **—**製造台数(1,000台) Anfavea(全国自動車工業会)



追悼アンドレア・トナッチ監督



布施直佐 (月刊『ピンドラーマ』編集長)

昨年 12 月、「バンギ・バンギ (1971)」「セーハス・ダ・デスオー デン(2006)」等の作品で知られ る、映画監督アンドレア・トナッ チが膵臓がんで亡くなった(享年 72)。 サンパウロのシネマテー カでは、2月初めから3週間にわ たって彼が監督したほぼ全作品を 上映する大規模な追悼上映が行わ れた。



アンドレア・トナッチは 1944 年イタリアのローマで生 まれ、1953年に家族と共にブラジルに移住、以降ずっと サンパウロに居を定めていた。1966年に短編「目には目 を | を監督した (編集は 同じく後に映画監督になるホジェ リオ・スガンゼーラ)。続けて製作した中編「ブラブラブラ (1968) | はジェトゥリオ・ヴァルガスの自殺をモデルに、 主人公がニーチェ、ブッダ、キリスト、ヘンリー・ミラー 等から引用したセリフをカメラに向かって機関銃のように 最初から最後までまくしたてる異様な緊迫感に満ちた作品 であった。この作品に関して、当時、芸術作品に対する検 閲を強めていた軍事政権のある部署から「これ以上同じよ うな作品を撮ると、息子さんを逮捕することになりますよ」 と電話で父親に警告があり、すぐにロンドンに脱出、1年 間ほとぼりを冷ました後ブラジルに戻り、処女長編「バン ギ・バンギーの脚本に取りかかった。

「バンギ・バンギ」はミナスジェライス州ベロオリゾンテ 市で低予算のため 11 日間というかなりの短期間で撮影が 行われた。ギャング映画で常用される記号(拳銃、カーチェ イス、派手な情婦、路上で炎上する車等)を散りばめながら、 脚本の時点では存在していたストーリーを撮影時に意図的 に筋が分からないようにバラバラに解体し、撮影後も編集・ 録音の過程でさらに解体を極限まで押し進めた実験的な作 品となった。

パウロ・セザール・ペレイロ演じる主人公が、奇妙な3 人組(女装して常に何かをモグモグ食べている男、盲目で 拳銃をやたらめったら撃ちまくる男、スーツで身をかた め、常に葉巻を吸い櫛で髪をとかしている男)に何らかの 理由で追跡されている、というのが大ざっぱな設定のよう だが、4人で郊外にピクニックに行ったり、ホテルの浴室

でペレイロがサルのお面をかぶってひげを剃ったり、手品 師のトリックでホテルの一室に突然「出現」した、女装し た男とスーツ姿の男がお互いの服を交換したりと、何が何 だかさっぱり分からないシーンが最初から最後まで続く。 全てのシーンから、ストーリーを形成しかねない「意味| がトナッチのスーパー「掃除機」によって吸い出され、い わば「真空」と化した空間で意味を剥ぎ取られた記号が分 けも分からずもの凄い勢いで乱舞する様は圧巻の一語に尽 きる。また、作品の半ばでジューラ・オテーロがビルの屋 上でフラメンンゴを踊りまくるシーンが唐突に挿入される が、これはロベルト・ロッセリー二監督の「ストロンボリ (1953)」の有名なマグロ漁のシーンと同じく、映像の強 度が臨界点を超え、映画から映画が溢れ出てしまった奇跡 のようなシーンだ。ブラジルでは 1960 年代末から 70年 代にかけて「シネマ・マルジナル」と呼ばれる、低予算の 実験的な作品群が現れ、現在では国内外で高い評価を得て いるが、「バンギ・バンギ」は「シネマ・マルジナル」の代 表作であるだけでなく、ブラジル映画史に残る傑作といっ て過言ではないだろう。

トナッチはその後、70年代から80年代にかけてイン ディオに関するドキュメンタリーを中心に活動を続け、 2006年に発表した長編「セーハス・ダ・デスオーデン」 で再び注目を浴びた。この作品は、1978年にマラニョン 州の集落で家族を白人に虐殺され一人生き残ったアワ・グ アジャ族のインディオ(カラピル)が、ゴイアス、バイーア、 トカンチンスの各州を 10 年間放浪し、トカンチンス州の ブラジル人の村落に住み着いていた所を FUNAI (ブラジ ルの国立インディオ基金)の職員に発見され、アワ・グア ジャ族の集落に連れ戻された実話に基づいている。トナッ チはカラピル本人とカラピルが住んでいた村落の住人、カ ラピルを保護した FUNAI の職員にこの出来事を演じさせ た再現シーンと、カラピルと約30年ぶりに再会した人々 の様子を捉えたドキュメンタリーシーンを複雑にミックス し、60才を過ぎてもいっこうに衰えぬ実験精神を観客に 強くアピールした。

遺作となった中編「既に見られた、まだ見られていない (2014)」は、子供時代のホームムービーや未完となった 作品の断片を細かく編集しつなげあわせ、自らの映像人生 のささやかな集大成となった。

日本思想史を研究する ブラジル人学者が 米国で「ブラジル」を教えると



(編集部注:コーネル大学准教授のペドロ・エルバー先 生は、ドイツ哲学研究を経て日本留学中は京都学派研究に 沈潜し、今や日本文学や美術史まで人文科学全般の研究で 新境地を切り開いている若手研究者だ。西洋諸語だけでな く韓国語や日本語も駆使しながら、種田山頭火や吉増剛造 のポ語翻訳を刊行し、昨年7月リオで開催された美術展「コ ンテンポラリーの出現 日本の前衛美術 1950-1970」(主 催:国際交流基金)ではキューレーターを務めるなど、八 面六臂の活躍を続けている。今回(2016年12月21日) の講演会では、日本語でフリーに話していただいた。)

1. コテンポラリーの出現

まず初めに、7月から8月にかけてリオ・オリンピック 期間中開催された展示会「コンテンポラリーの出現 日本 の前衛美術 1950-1970」についてお話したい。私がキュー レーターを務めたが、事前の準備期間は2年以上もかけた、 自分にとっては"渾身の展示会"であったからだ。ブラジ ル側の財政補助は得られなかったものの、国際協力基金の 全面援助があって行うことができた。ちなみに展示会参加 者数は3万6千人だった。

1964年の東京オリンピックに対して当時の作家やアー ティストが、賛成なり反対なりのパーフォーマンスをどう 展開したか、これが当時のコンテクストにおいてどんな意 味があったか、を、この展示会を通じてリオ・オリンピッ クを迎えたブラジル人観客に提示したかった。さらには、 現代ブラジルのアーティストたちに東京の経験を伝えるこ とも自分の使命と思ったのだ。

私が特に注目したのが、赤瀬川原平率いる「ハイレッド・ センター」が展開したパロディ・パーフォーマンスだった が、これをリオに移し替えて、リオのアーティストによる 新作をやったのが、この展示会の目玉だった。

2. 遊戯の政治

私が大学学部(リオ連邦大学)からドイツ留学をへて修 士課程 (PUC カトリック大学) で専攻したのは、ドイツ 哲学とりわけハイデッガーであったが、彼の哲学における 政治と真理の相関性を研究する過程で日本の京都学派(西 田幾多郎、田辺元ら) に出会い、ここから日本をはじめと するアジア文化・思想研究も行うようになって、酒井直樹

先生(コーネル大学教授、哲学史学者)の指導下で博士論 文を書いた。ハイデッガーにとっても政治と真理をつなぐ 機能を有したのがアートであったので、現代アート研究に も注力するようになった。

大学では、英語、スペイン語、ポルトガル語をつかって ラテンアメリカ思想史、文学、美術史などを教えているが、 ブラジルの作家の例をいくつかみておきたい。

まず、ブラジル最大の文豪マシャード・デ・アシスが 1892年(奴隷制廃止の4年後)に書いたクロニカ(連載 エッセイ) から。奴隷だった者が主人の邸宅へ向かう時に 感じる義務感への反発から、文芸批評家アントニオ・カン ディードが社会学的に解明した「マランドロ(悪党的に要 領のいい男) | 概念につながってくる、と読んでいく。

マリオ・デ・アンドラーデの名作『マクナイーマ』の書 き出し、「アーイ、なんてめんどくさいんだ」の意味。6 歳になって初めて突然話し出した主人公が最初に発したコ トバが、これだった。面倒な仕事をしたくない、ブラジル 性を代表するキャラだが、数多くのブラジル文学作品のな かで奴隷を直截的に描いた作品が何故少ないか、の説明に つながってくる。

日本では文部省が人文科学不要論を持ち出し、大いに議 論されているが、実は米国の大学(コーネルも)でも不要 論がいわれており、この人文科学の危機(不要論)は、日 本でも米国でもブラジルでも同様であり、私はこれへの反 論のためにもブラジル思想史研究が有用だとも考えてい

グローバリゼーションによって経済的所得の格差が拡大 している、というが、実は、多人種多民族国家で、一国に 世界の矛盾が集約されているようなブラジルは、一国で、 それを象徴的に具現している、従って、"Globalization is then Brazilianization"となる、と考える学者(例えば、 社会学者トーマス・ラルソン) が増えてきている。

技術革新によってIT=機械が人の仕事を奪い、 flexibilization of work という労働の非正規化が起きてい るが、これは18世紀末のドイツ詩人シラーが既に予言し ていたと私は考えている。

こんな私のブラジル関連授業を受講する学生(学部)の 数は、ブラジル経済が調子よかった数年前は50~60人 だったが、政治も経済も低迷する最近は、20名ほどに減っ てきている、これも現実である。

13

●12=



松田純-(弁護士。松田綜合

日本版集団訴訟制度(クラス・アクション)といえ る「消費者裁判手続特例法」が2016年10月1日に 施行された。個々の消費者は、企業に比較して紛争解 決に充てられる費用・労力、情報の量・質の確保に限 界があるとされる。従って、訴訟を通じた被害の回復 が困難となるため、当該制度の必要性が指摘されてい た。実は日本の制度はブラジルの制度をモデルとして いるので、ブラジルの制度の歴史や特徴などを併せご 紹介したい。

ブラジルの集団訴訟制度の特徴と 本邦制度との共通点

昨年11月、慶應義塾大学法学部および国民生活セ ンター主催による「日本ブラジル国際シンポジウム 2016」が開催された。テーマは「ブラジルにおける 集団訴訟制度を通じた消費者被害救済と抑止手法の現 況」。筆者が事務局長を務める「日本ブラジル法律・文 化協会」(本林徹理事長、元日弁連会長、弁護士) は年 次総会を兼ねて共催し、日本ブラジル中央協会に後援 していただいた。

ブラジルの集団訴訟制度の歴史は古く 1990年に 消費者保護法が成立したが、体系的な集団訴訟制度は 1985年の公共民事訴訟法、個人に帰属しない一定の 集団的利益保護の意味では 1965 年の住民訴訟法に遡 ることができる。集団的利益の紛争を裁判によって解 決をはじめたのは米国であり、1938年以降、根本的 な規定が明文化されるようになった。

ブラジルは米国の影響を受けたが、1970年代のイ タリア法学者の学説も考慮し、政治や社会の実情に合 わせた制度を構築していった。米国とブラジルの制度 の大きな違いは以下に要約される。

米 国:一段階型訴訟制度、手続きの枠組みは オプト・アウト型(除外型)

ブラジル:二段階型訴訟制度、手続きの枠組みは オプト・イン型 (参加型)

ブラジルの二段階型とは、一段階目で共通義務を確 認し、二段階目で対象消費者の債権を個別に確定する。 一方、米国では紛争が一回で解決され、対象消費者の 総員に対して支払うべき総額が判決で命じられる。オ プト・インでは消費者自ら訴訟への参加手続きが必要

である。オプト・アウトでは除外の申出をしない限り訴 訟に参加することになるため、オプト・アウトしなかっ た消費者には有利、不利を問わず判決の効力が及ぶ。

日本はブラジルの制度をモデルとした。また、原告 となれるのが一定の機関や団体に限定されることもブ ラジルに倣っている。一方、わが国の制度は「同種個 人的利益 | (例えば、欠陥製品の購入者の権利など、出 所を共通する利益) のみに対応するが、ブラジルの制 度は、これ以外に「拡散的利益」(健康な生活のための 環境への権利など、集団に属する利益)、「集合的利益| (特定の税金の納税者グループ、医師などの専門カテゴ リーに関する利益) にも対応する。

ブラジルで積極的な活動を行い消費者保護団体とし て高く評価されているのが 1987 年設立の「ブラジル 消費者保護協会 (IDEC)」。集団訴訟 (不当な貯蓄金利 水準、誤解を招く宣伝、家畜飼料への発がん性物質混入、 電話料金の不当な値上げと使用範囲制限等)に限らず、 食品品質検査、消費者保護・啓蒙活動、会員を代理し ての個人的訴訟、機関誌発行を行い、会員数 1 万人を 誇る。また、「検察庁」が『公平な当事者』という一見 矛盾した役割を担い、公共民事訴訟の提起数では、原 告となることのできる他の適格団体の提起数を圧倒し ていることが特徴的である。

集団訴訟対応への助言

事業者は、集団訴訟が提起されたら社内で問題を抱 え込まず、直ちに専門性の高い弁護士に相談していた だきたい。また、該当商品の使用方法、原告の経験や 訴訟の内容を調査するだけでなく、原告が「クラス」 として認定されるかどうか確認する必要がある。クラ スの構成員の多数性や共通性などが裁判所に認められ ない限り集団訴訟とはならない。集団訴訟が回避され ると、概ね早期解決につながる。

日本の制度は発足したばかりゆえ、今後、制度の運 用について議論が起きると思うが、消費者、事業者と もに問題の本質を把握、対話を促進し、紛争の適切な 解決策を検討して欲しい。その結果として、苦情やク レームが減少していくことを期待している。

当コラムの私の担当は今回が最終回です。 10回に百りお読みいただき、誠にありがとうございました。

ブラジルの「のれん」の 償却メリットについて



今回は、ブラジルの会社を買収することで、のれんの償却 メリットも享受することができる点についてご紹介したい。

#000000000

日本において、買収価格と対象会社の時価純資産の差額 がのれん (超過収益力) となり、税務上の償却メリットを 享受できるのと同じであるが、日本の制度との大きな違い は、ブラジルでは合併して初めて、のれんの償却が認めら れる点である。

ブラジルの会計は、ほぼ IFRS (国際財務報告基準) に 近似する会計制度が採用されており、買収にあたって PPA(パーチェス・プライス・アロケーション) が適用さ れる。この会計基準に基づく会計処理が税務上の償却の計 算基礎となる。日本では、会計と税務がそれぞれ独自の制 度で計算を行い、その差を税効果会計で調整するが、ブラ ジルの場合、先行する会計に、税務上の処理が追随する流 れになっているのが特徴である。

そもそもこのブラジルの制度は、1980年代、ブラジル の通信事業の民営化に際して、外国人投資家を呼び込むよ うに設けられたものである。租税逃れ目的のみに、このス キームを採用すると、税務調査で損金性を否定される場合 もあるので注意が必要だ。最近では、のれんの償却メリッ トを享受するスキームを採用する場合、ほとんどが税務調 査の対象になっていると聞く。よって、当該スキームを採 用する際は、専門家による適切なアドバイスを受けること をお勧めする。

テクニカルには、前回の内容を含め、以上がブラジル M&A の留意点の主なポイントであるが、常々の仕事の中 で感じる補足的な留意点をもう3点ほど述べたい。

マインドセットを少し昔の日本のモードに

ブラジルの一人当たり GDP は、日本の 1970 年代に近 い。個人的には、ブラジル人の経営者の感覚は、その当時 の日本の時代感覚に近いと感じている。時として、地球の 反対側に一日以上かけて出張してきて、買収に向けてほ ぼ1週間の間でいろんなことを遂行しなければということ で、日本側はかなりタイトの。 である。しかし、ブラジル人の経営者にしてみれい。 である。しかし、ブラジル人の経営者にしてみれい。 軟性)をもっこ。 ということが、話のスタートとしてとても大事な事なので もしれない。 15

ある。

そのため、最初のミーティングでは、相手のことをよく 知り、こちらのことをよく知ってもらうことに徹すること が重要である。共に、語り、飲食し親交を深めることも重 要である。この人とビジネスをしたいと思わせる関係をつ くるというのが、とても大事で、その後の様々なやりとり をスムーズにする、というのが当方の体験的実感である。

日本の本社はビジネス環境の違いを理解する必要

昨今、よく生じる問題は、ブラジルの現地法人側は非常 に M&A を推進したいのだけれども、日本の本社側がブラ ジル経済の今後の動向についてまだまだ懐疑心が強く、検 討が進まないケースである。

日本側が、日本円やドル建てでブラジルの業績を理解す るのに対し、現地でのものの考え方はあくまで現地通貨の レアルベースである。昨年最も、貨幣価値が強くなったブ ラジルレアルであるが、欧米の近くにあり古くから経済的、 大規模経済圏の経済事情に翻弄され、為替は変動する傾向 にある。この為替の「ノイズ」を外して、まずは、現地企 業の業績を理解する必要がある。

また、資源価格や農産物価格の変動を受け、ブラジルの 経済は大きくスイングする。技術立国の日本もじわじわと 競争力を喪失していると言われるが、日本と違う経済環境 のブラジルにあっては、日本以上に波乱含みの状況にさら されている。その「波動」を日本のマネジメントサイドは よく理解する必要があるし、ブラジル子会社のマネジメン トは、その理解者を本社側に増やすよう努力する必要があ

PwC Japan グループでも 2010 年に初めて日本人プロ フェッショナルをブラジルに出向させたり、日本でブラジル 人出向者を受け入れたり、ブラジル人を採用し、いくつもの 壁を超えることで双方の理解が少しずつ深まったと思う。

ブラジル人上司が、私が日本に帰国の際、"Você gosta do Brasil?" (ブラジルのこと好きか?)と聞いてきたけ

.

.

.

.

.

40年目の修士論文 何故セラード開発を再考したか



転勤する父に伴われ、カレンダーで覚えた31までの数字と「おはよう・こんにちは」程度のポルトガル語しか知らずに、15歳でブラジル・サンパウロの地を初めて踏んでから、40年以上が過ぎた。その時は、以降の自分の人生がブラジルあるいはポルトガル語と切っても切れない縁になろうとは、想像もしていなかった。しかし、このほど50の手習いで日本の大学院に入学し、最終的に選んだ修士論文のテーマは、図らずも、自分が滞在したブラジルの70~80年代に関わる内容となった。この時代と場所には、やはり引きつけられるものがあるのかもしれない。

75年から83年まで、私はサンパウロで学生として過ごした。渡伯半年後に伯国教育省から編入許可が出て、富裕層の通う某私大の高等部に入学した。これをなんとか3年で卒業し、当時のFUVEST(サンパウロ州立大学統一試験)を受験した。滞伯3年半で第一志望のサンパウロ大学哲学言語社会科学部(FFLCH)社会科学科に入学できた時は嬉しかった。しかし、それも束の間、語彙やブラジルの社会と歴史についての予備知識が文系の大学カリキュラムをこなすには圧倒的に足りていなかったせいで、大学入学後はそれまでに増して絶望的な勉強をする八メになった。

高等部を卒業した私大と、60年代には同じ通りに面した建物にあったサンパウロ大FFLCHが、街路を挟んでイデオロギーの違いから火炎瓶の投げ合いをする間柄だったと知ったのは、大学入学後のことだ。社会科学を選んだのは、ブラジルという国をさらに知るには最善の選択だろうと思ったからだが、気がつくと、極端から極端へ一足飛びに移動することになっていた。

大学に入学した79年、フィゲイレード政権が民政移管プロセスを開始した。自分の情報収集力のなさと、情報そのものの統制のせいで、それまでほとんど知ることのなかったブラジルの生の歴史が、一度に押し寄せてきた。大学のホールには、軍事独裁政権時代に政治的理由で行方不明になったり拷問殺害されたりした同学の教員や学生の写真入りリストが壁一面に貼り出されていた。軍政下で労働争議は非合法だったが、サンパウロ市郊外では自動車組立工の大規模ストが起き(そのリーダーが後のルーラ大統領である)、労働者が司教とともに教会に立て籠もり、市民

に銃口を向ける軍隊と対峙していた。大学でも新学期初日から教員の一斉ストが始まり、学生が政治集会を開き、工場労働者たちのストへのカンパを募っていた。軍政最後の政権下で市民が民主主義を求めて声を上げるのを、社会科学の外国人学生として目の当たりにするのは、強烈な体験だった。

しかも、ブラジルでの私の父は、セラード地域で農場 2 箇所を経営する日系進出企業のサラリーマン経営者だった。植民地以来続くブラジルの土地所有の強い偏在という問題や、農地改革を否定した上で行われていた農業開発がいかに社会格差を広げ、都市問題を引き起こしていたかは、先住民社会のフィールドワーク調査などと並んで大学の授業やゼミのテーマであり、必読文献の内容でもあった。父の仕事は、まさにそこで批判されていた農業開発の一端を占めていた。その随伴子女だった私は、あの躍動的な時代にその立場にいたことで、結構悩ましい学生時代を送ることになった。

しかし、今回「日伯セラード農業開発協力事業とブラジル農村社会についての一考察 - 農業近代化が取り残したもの」を修論のテーマに選んだ時、実はそんなことはほとんど忘れていた。テーマは全く別の理由から選んだので、関連文献を読み始めるまで、自分との接点については、間抜けにも思い至らなかったのだ。記憶は、JICAの事業実施報告書他を分析し、当時のブラジルの社会経済政治的文脈に置き直すという作業を行う中で、蘇ってきた。大学時代に読んだ文献を、自宅の本棚から発掘して再読した。不足していた理解を深め、誤っていた認識を修正した。そして、父の生前もっと話を聞いておけばよかったと、後悔した。

論文は、ブラジルの保守的農業近代化政策を長く牽引した件の協力事業を批判的に分析し、その排除性を複数の側面から指摘するものだ。父が読んだら、恐らく苦笑いしただろう。しかし、書いた本人としては、あの時代を振り返り、現在に改めて結びつけることで、悩ましかった自分の学生時代についても、一応の区切りをつけられたような気がしている。そして、この区切りが自分とブラジルとの新たな「付き合い方」のきっかけになればと願っている。



ウーマン・アイ

ピロンにアカラ〜バイーア生活経験者が西アフリカを体験すると

門内ユキエ (アーティスト)

2012年はブラジルのバイーアに、2013年はベナン共和国に、画家の私は制作活動の為、一緒に行っていた旦 K介氏はバイーアと西アフリカの奴隷帰還人に関する研究の為に滞在していた。ベナンではコトヌーという町に住んでいて、ある日、K介氏が隣町の奴隷帰還人の子孫達が多く住む Porto Novo (ポルト・ノーヴォ) へ調査へ行くというので私も同行した。

ポルト・ノーヴォでは観光ガイド志望の青年と知り合い、お昼は地元名物の豚料理屋さんへ案内してくれた。その豚の料理名は「ハンペテ」。豚のBBQと、豚の血などで作ったソース、主食にピロンもしくはアカサを選ぶという料理で、驚いたのがこのピロン。名前も調理方法もバイーアのPirão (ピラゥン)と一致している食べ物だった。ピラゥンはあまり主張しない味付けだけれど、ピロンは豚の血のソースで手で掴める位の固さに溶いてあり(ベナンでは手で食事をするので)、はっきりとした味で猛烈に辛い。このピロン・ピラゥンの類似性は奴隷貿易による行き来を表せるも

のだと思う。しかもハンペテ屋はブラジル帰還人の多いポルト・ノーヴォではよく見かけるもののコトヌーではあまり見かけず、その可能性は高そうだ。あと、ベナンの道端で売っているスナックに豆を潰してパームオイルで揚げた「アカラ」という食べ物があり、これも Acarajé (アカラジェ)と関係があるのだろう。

ブラジル帰還人コミュニティーの中では、祝い事やイベント等でバイーア伝来の祭りや食べ物を再現することはあるけれど、一般の日常の中ではこのピロンとアカラがバイーアとのつながりを感じた。そして、ピロンを含むハンペテは、実は私がベナン滞在中に頻繁に食べて最も好きな食べ物だった。食べ物としての個性も強烈で、ピロンをバイーアの人達が食べたら何て言うのかなと想像する。目から星が飛び出るほど刺激的だし中毒的に美味しいからきっと気に入って、バイーアでもハンペテ屋さんが即オープンするのではないかと思う。そしたら料理名はやっぱり「ハンペチ(アンペチ)」になるのかも?

ジャーナリストの旅路

ラーメン戦争と日系社会

日本人の「国民食」、ラーメンの海外進出が加速しているそうだ。その勢いたるや、寿司ブームを凌駕するほどだとか。流行に敏感な米ニューヨークや仏パリでは、有名店が激しい出店攻勢を掛けて「ラーメン戦争」が勃発していると聞く。

そのラーメンブームは、ブラジルの大都会サンパウロにも飛び火している。2015年以降、市内だけでも「MOMO」「JOJO」「TAN TAN」「HIRA」「2nd Floor」などのラーメン屋が新装開店。「居酒屋」や牛丼チェーン「すき家」までもがラーメンを出すようになった。数時間待ちの行列ができる人気店もある。

脱サラの元駐在員や米国で修行した日系人など、経営者の経歴は様々。厨房を臨むカウンターとテーブル席を備えた日本風の店構えも多い。筆者のお気に入りは「JOJO」の醤油ラーメン。ダシの効いたスープに、分厚いチャーシュー、しゃきしゃきと歯応えあるメンマ、ぱりっとした海苔が乗って27レアル。この価格で日本とそん色ないレベルのラーメンが食べられるのだからありがたい。

当地に赴任した4年前、評判のラーメン屋といえば、東 洋人街リベルダージの「あすか」と「和」の2店しかなかっ 辻修平 (時事通信サンパウロ特派員。00年入社、13年から現職)

た。麺好きの筆者にとって「ラーメン戦争」は大歓迎。さ らなる「戦火の拡大」を密かに願っている次第である。

このブームがブラジルのほかの都市に波及したという話は聞かない。だから、サンパウロのラーメン人気は「日系人社会の存在と無関係ではない」とにらんでいる。週末、買い物に行くと、日本食材が並ぶスーパーは地元客で大繁盛。サンパウロでは、ブラジル人にとっても日本食は身近な存在なのだ。

苦難の歴史に耐え、多くの成功者を出した移民一世や日系人のおかげで、控えめに言っても、ブラジル人は日本にいいイメージを持ってくれていると感じる。「勤勉で誠実、信頼できる」。時にこちらがくすぐったくなるほど、持ち上げてくれる人もいる。多様な移民国家にあって、これほどの名声を勝ち得た日系社会の努力には、頭が下がる思いである。

翻って、日本人のブラジルへの印象はどうか。恥ずかしながら筆者自身、こちらに赴任するまで日系社会の功績の大きさは知らなかった。「サッカーとカーニバルと熱帯雨林だけでないブラジルをもっと日本に伝えていかなければいけない」。ラーメンをすすりながら、気を引き締めている。

16

ブラジル社会論の古典『ブラジルのルーツ』 初版刊行80周年記念特別版の"衝撃"

凒和田仁(『ブラジル特報!編集人)

進んだヨーロッパを仰ぎ見ては、自国が有色人種混 淆の後進社会である、と劣等感を抱きタメ息ばかりつ いていたブラジルのインテリ層がブラジル的価値に目 覚め、ポジティブに評価するようになるのは 1930 年 代以降である。1922年にサンパウロで産声をあげた モデルニズモ (近代主義) 運動が発火点となったが、 ブラジル社会論としては、米国で文化相対主義的視点 を学び取ったジルベルト・フレイレ (1900~1987) の『大 邸宅と奴隷小屋』(初版 1933年)、ドイツのウェーバー 社会学を柔軟に吸収したセルジオ・ブアルケ・デ・オ ランダ (1902~1982) の『ブラジルのルーツ』 (初版 1936年)、の二冊がパイオニア的古典となっている。

サンパウロ法科大学を卒業したセルジオ青年は、 1929年から二年間新聞のドイツ特派員として活躍す る一方、旺盛な読書家としてジンメルやマックス・ ウェーバーの社会学を耽読し、フランクフルト学派の 影響を受ける。帰国後、ウェーバーの官僚制や家父長 制という分類規範を応用して、ブラジルの歴史を分析 し、堅実と冒険、農村と都市、官僚制とボス制、規律 と衝動、といった"対"を通じて、ブラジル社会をポ ジティブに解釈する著書を構想する。

> 1936年に出版された『ブラジルの ルーツ』(邦訳『真心と冒険』新 世界社、1971年)がそ の構想の具体的結実で

> > あったが、イベリヤ的遺 産である農村的・家父長的な

環境が「真心ある人」(homen 『ブラジルのルーツ』 cordial) を育んだとして、このブ ラジル的エトスは世界に貢献できる、と主張したのだ。

ただ注意しなければならないのは、この「真心」は善 意を前提とせず、礼儀正しさを意味してはいない、と いうことだ。形式を嫌悪し、公と私を混同するエゴイ スト傾向と表裏一体なのである。この著書は、ブラジ ルの歴史的構造を社会心理学や歴史社会学の視点から 鋭く分析したものであり、歴史学は過去の知識と現在 の問題を繋ぐものでなければならないと語ったのだ。

第五章のさわりの部分を引用してみよう。

「ブラジル人はその真心で世界の文明に貢献できるであ ろう、世界の人々に真心のある人を送ることが可能で あろうと巧みに表現した人がいる。率直な態度、親切、 手厚くもてなそうとする気持ち、寛大な心など、少な

くとも農村的、家父長制的な環境の中 で育まれた社会生活の規範の影響――

しかも先祖代々に亘るこの影響が力を失うことなく、強 く残存する限り、ブラジルを訪れる外国人がこぞってほ めそやすこれらの美徳はブラジル人の国民性としてこれ からも消えることのない特徴となろう。」

セルジオ・ブアルケ・デ・オランダ

この『ブラジルのルーツ』初版刊行から80周年とい うことで、昨年2016年8月に特別版が刊行され、大き な話題となった。というのも、これは単なる重版ではな く、初版 (1936年) 第二版 (1948年) から第5版 (1969 年)まで、セルジオ自身が加筆・修正を加えたあとがす べてわかる特別編年版になっているからだ。

とりわけ第二版(1948年)が大幅に修正された版で、 初版 (1936年) の 200 か所以上が修正されている。例 えば、第三章のタイトルは「農業的な過去」から「農村 的な遺産」に変えられ、ナチスに協力した政治学者カー ル・シュミットからの引用はすべて削除されている。

この特別版の編者であるペドロ・モンテイロ(プリン ストン大学教授) とリリア・シュワルツ (サンパウロ大 学教授)によれば、キーワードである「真心ある人」も、 実はセルジオの発明ではなく、二カラグアの近代主義詩 人ルーベン・ダリオが初めて言及した由だ。

さらに、「真心ある人」は農村文化がマジョリティで あった時代は、ポジティブな意味を有していたが、都市 化によって、農村文化が消滅傾向にある現代においては、 「真心ある人」概念そのものが、むしろネガティブな意 味に転化する、と指摘されている。

また、フォーリャ・デ・サンパウロ紙へのインタビュー で政治学者ジェッシ・デ・ソウザは「真心という概念そ のものが、経済エリートの完璧なるイデオロギーである からこそ、歴史的な不平等性を見過ごしたのだし、「セル ジオの保守的分析では、権力者による汚職が不可視化さ れてしまう」と昨今の PT(労働者党) 政権下のメガ汚 職腐敗を示唆するような発言をしている。セルジオ・ブ アルケは、1980年の PT(労働者党) 結党の創立者の一 人であったのだが、彼への評価も時代と共に"激変中" といわざるを得ない。

ポジティブなブラジル的価値を象徴する「真心ある人 間」像が揺らぎ、ブラジル的価値に対する自信喪失とも 読めるが、歌手兼作家シコ・ブアルケのオヤジでもある セルジオ・ブアルケの知的遺産は、没後35年経った今 日でもポレミックであり続けている。

最近のブラジル政治経済事情(外務省中南米局提供情報並びに現地メディア報道他より)

ブラジル外交 (2017年の重要課題: 当地有識者の論説記事)

昨年12月29日.FGV大学のストンケル (Oliver Stuenkel) 准教授は自身が運営する新興国外交ウェブサイトに「2017 年のブラジル外交重要課題トップ 10」と題する英文記事を 掲載している。ブラジル外交重要課題トップ 10 は;

- ①国内経済回復への取組
- ②長期的・戦略的な対ベネズエラ関係の構築
- ③汚職を国際問題に波及させない
- ④ブラジルが転換期を迎えていることを対外的に説明
- ⑤「アジア・セントリック」への備え
- ⑥国内暴力対策への貢献
- ⑦安全保障分野でのプレゼンス強化
- ⑧サイバー空間への対応
- 9 BRICS の強化、IBSA の再活性化
- ⑩国際機関改革への取組

となっているが、この⑤「アジア・セントリック」への備え、 についてのコメントは、「中国経済が減速しているといえ、 世界の基軸がアジアに移動していることに異論を唱えるも のは少ないであろう。今後、グローバルな課題はアジアを 中心的として動いていく。北京に駐在するブラジル外交官 の数は増えてきているが、東京、ハノイ、ニューデリーと いった国は少なすぎる。「アジア・セントリック」への対応 はブラジル外務省のみに任せる話ではない。メディア、大学、 企業等が一致団結してこの変革に備える必要がある。この 点. ブラジルの AIIB 創立メンバーへの参加や BRICS への 積極的な関与は進むべき方向性としては正しい。」

2016年度自動車販売における各社占有率

バスやトラックを含む自動車の2016年の新車販売台数 は、205万台であったが、これは前年比▲ 20.2% となった。 各社別の市場シェアーをみると、フィアットとフォードの 凋落、現代とトヨタの躍進、という傾向が読み取れる。 2016年度の各社シェアー・順位

① GM······ 17.41% ②フィアット······ 15.35% ③ワーゲン…… 11.50% ④現代…… 9.96% ⑤トヨタ…… 9.08% ⑥フォード····· 9.07% ⑦ルノー…… 7.55%

ちなみに、2015年度の各社シェアー・順位は;

①フィアット…… 17.73% ②GM····· 15.66% ③ワーゲン…… 14.51% ④フォード·········· 10.25% ⑤現代…… 8.26% ⑥ルノー······ 7.33% ⑦トヨタ…… 7.10%

であった。

Fenabrave(全国自動車販売業者連盟)によれば、2017 年度の新車販売は前年比プラス 2.4% と予想されているが、 2015年1月から2016年6月にかけて閉鎖された販売代 理店の数は 1,290 店舗にのぼり、12 万人が失業したとい う過去の傷は疼いている。

貿易収支・経常収支

貿易収支については、2016年通年の輸出額は1.852.35 億ドル(前年比▲ 3.1%). 輸入額は 1.375.52 億ドル(前 年比▲ 19.8%) で、差引き 476.83 億ドル (前年比+ 142.2%) と過去最高の貿易黒字を記録したが、輸出額も 輸入額も3年連続で前年割れとなっている。

一方、経常収支をみると、2008年以降経常赤字が続くが、 2014年▲ 1.042億ドル、2015年▲ 589億ドル、2016 年▲ 235 億ドル、と着実に赤字額が減ってきており、この 主な要因は貿易黒字の増加と外資系企業による利益・配当 送金の減少、とみられる。

また 2016 年の海外からの対内直接投資額は 789 億ドル となっており、経常赤字の3倍ほどだ、と読むこともできる。

ちなみに旅行収支をみると、2014年▲ 187億ドル、 2015年▲ 115億ドル、2016年▲ 84億ドルとなってき ており、ブラジル人の海外旅行回数が減ってきていること が確認できる。

テオリ・ザヴァスキー連邦最高裁判事の 飛行機墜落事故死

ラヴァ・ジャット捜査(国営石油会社を巡る大型贈収賄 疑惑捜査)におけるオーデブレヒト社役員の証言を精査し ていたテオリ・ザヴァスキー連邦最高裁判事(享年68歳) が、1月19日、飛行機の墜落事故で死亡した。判事は、サ ンパウロ市のカンポ・デ・マルチから7人乗り双発ビーチ クラフト機に乗り込み、リオ州のパラチに向けて 19 日 13 時1分に離陸した。その後、飛行機は、リオデジャネイロ の南沿岸部,空港まで2キロの地点に墜落し、パイロット を含め5人の死亡が確認されている。事故当時、現場周辺 には、激しい降雨が観測されている。事故原因については、 一時、陰謀説まで飛び交ったが、複数のメディア報道によ れば、エンジン・機体に異常は見られず、パイロットミス の可能性が指摘されている。

ザヴァスキー判事の死去直後は、最高裁におけるラヴァ・ ジャット捜査の報告者はザヴァスキー判事が所属していた 最高裁判事第2班から選出することが筋の通る話だと言わ れたりしたが、2月2日、中立性の定評があるファキン最 高裁判事がラヴァ・ジャット捜査の報告者に選出された。 既に1月30日にカルメン・ルシア最高裁長官によって法 的に承認された、77名のオーデブレヒト社幹部達の証言を 精査する作業は、ファキン判事の指揮下で取り進められる こととなった。



◆◆◆◆◆◆ 新刊書紹介 ◆◆◆◆◆◆ 『猥褻な D 夫人』

一猥褻なリ天人

(イルダ・イルスト著、四方田犬彦訳) 精神を病むことになるコーヒー農園主の一人娘として生まれ、富・知性・美貌の三拍子が揃っていたイルダ (1930~2004) はサンパウロ大学法学部を卒業するが法曹界にはいかず、奔放な男性遍歴を経て、カトリック的価値体系に抗った詩や小説を発表していく。何とも難解にしてエロティックな異端文学は高踏的であるが、"毒のある魅力"もたっぷり。その魅力にハマった訳者による「イルダ・イルスト覚書」は熟読に値する。

(現代思潮新社 2017年2月 202頁 2,000円 +税)

『コロンブスの不平等交換』 (山本紀夫著)

農学と人類学の二つの博士号を持つ著

者が長年にわたる現地調査に基づく知見を平易な文体で語る歴史啓蒙書だ。 ヨーロッパによるアメリカ大陸「発見」がもたらした交換の功罪を、トウモロコシ、ジャガイモ、サトウキビ&奴隷制、疫病といった具体例に沿って明らかにしている。栽培や貯蔵について先住民が開発したノウハウを文理両面の視点から静かに再評価する著者の姿勢は感動的ですらある。ブラジル関係者にも必読書だ。

(角川選書 2017年1月 246頁 1,700円+税)

『ブラジル民主主義の挑戦』 (佐藤祐子著)

カルドーゾ政権が始めた「社会自由主義」的社会政策が PT(労働者党)のルーラ政権によってさらに "深耕" され、並行して、市民参加型の政治制度が試行・確立されてきた。こうした国家レベル・地方レベルの参加型制度の事例研究を通じて、現代ブラジル民主主義をポジティブに分析した若き政治学徒は、メガ汚職の発覚と大規模抗議行動の広汎化という新しい現実を前に、この参加型制度の監査機能が限定的だった、と考えることとなる。

(風響社 2016年10月 64頁 800円+税)

『大地を受け継ぐ』(A・ライト、W・ウォルフォード著、山本正三訳)

2003 年刊行の原著のタイトルは新約 聖書マタイ伝から採られているが、サ ブタイトルは「土地なし農民運動と新 しいブラジルをめざす苦闘」。MST(土 地なし農民運動)を熱烈に支援する歴 史学者(カリフォルニア大学名誉教授)が、ブラジルにおける大土地所有制と 農地改革、農民運動の歴史を、リオグ ランデ・ド・スール州、ペルナンブー コ州、アマゾン地方での事例研究を通 じて批判的に叙述している。

(二宮書店 2016年4月 416頁 4,800円+税)

『赤いレトロな焙煎機』(玉川裕子著)

現在コーヒー教室を主宰する著者は歌人でもある。コーヒー鑑定士資格を取得すべくブラジル・サンパウロに渡った著者はコーヒー教室を通じてブラジル社会と交流し、ノルデスチやパンタナールなどにも足を運ぶ。コーヒーを介在してブラジルを体感し、その感動を短歌や紀行文に記録していく。「この歌文集は、あきらかに、反私性の方向を目指している」との跋文を寄せたのは歌人(文化功労者)の岡井隆だ。

(春風社 2016年4月 166頁 1,500円+税)

!!「びっくり豆知識」!!

「駐在員2世」が減っている。さあどうする?

「♪♪ オジェ タンベーン、ダ・コリーナ・デ・カンポリンポ、バーモス……」(♪♪今日も、カンポリンポの丘に立ち、はるか空を見上げよう……)。

サンパウロ日本人学校の卒業生はみんなこの校歌を忘れない。同校出身と言う若者に、これが歌えない子はモグリだ、と冗談を言った覚えもある。

その日本人学校の生徒数 (小中学校) が激減しているという。 ピーク時は世界最大級の 1000 人を超し、筆者がいた 80 年 代半ばも約 900 人で、いつもごった返していた。74 年に移 転して開校、12 万平方気の広大な敷地に体育館、プール、サッ カー場、コーヒー園も備えた大規模校だ。それが経済混乱と 景気低迷で 08 年には 160 人まで減った。16 年には 220 人程度に増えているが、それでも 80 年代の 25%ほどだ。

一方、ブラジル日本商工会議所のデータでは、会員企業数(現地企業、外資系含む)は90年の約330社から徐々に落ち込んだが、02年を底に15年は360社前後に回復している。また日本外務省の日本企業海外拠点数でみると、現在ブラジルにはおよそ700拠点がある。つまり日本の進出企業数、拠点数は昔に比べて減ってはいない。さらには長期滞在者数

は06年から15年の10年間に45%も増えているという。 おそらく家族帯同の赴任が減り、単身赴任か独身者が増えてきたことが最大の理由だろう。サンパウロに集中した赴任が地方都市に拡散したこともある。子供を現地校やインターナショナルスクールに入れる家庭もあるはずだ。また、日本人学校までのスクールバスの運行が渋滞で遅れ気味になり、保護者が送り迎えを強いられるケースもあるという。

ブラジル日系人の子供たちは「2世、3世」と呼ばれる。 その伝でいけば、日本人駐在員の子供たちは「駐在員2世」だ。 両親の都合で否応なしにブラジルまで連れてこられた子供た ち。だが、この子らは帰国後に成長し、ブラジルファンの「2 世」として立派に跡継ぎをしているに違いない。

ブラジルは良かった。ブラジル人の人間性が好き――子供 たちはそんな元駐在員父母の話を聞きながら、それぞれのブ ラジル像を組み立てていく。でも「駐在員2世」がこれ以上 減ると、そんな空気は一変するかもしれない。駐在の辞令を 受けた家族はまず治安を心配する。「気にするな、楽しいぞ」 と言えるようにしたいのだが。(W)

ブラジル赴任の前に ビジネスで使えるポルトガル語を



BrAsia(ブレイジア) 運営:株式会社 漢和塾 〒104-0061 東京都中央区銀座1-16-7 銀座大栄ビル5階 TEL03-4360-8627

お問い合わせは

E-mail:brasia@kanwajuku.com HP:http://brasia-j.com/



日本ブラジル中央協会 からのお知らせ

協会イベントのご案内

参加のお申し込みは、協会HP お申し込みフォームにてお願いします



ランチョンミーティング

講 師:青木 智栄子 氏 (Blue Tree Hotel CEO)

ブラジル有数のホテルチェーンである Blue Tree HotelのCEOを務める青木智栄子氏は、6歳の時にブラジルに渡り、サンパウロ州立大学で法律学、上智大学大学院で経営学、米国コーネル大学でホテル経営学を学び、Caesar Park Hotel等の経営に携わりました。その後、ホテル運営会社のBlue Treeを設立し、同ホテルの運営を委託され、ブラジルを代表するホテルチェーンに育て上げました。2013年の米国フォーブス誌は、青木氏を「ブラジルで最も影響力のある女性」の第二位に選ぶなど、日系人社会のみならず、ブラジル社会全体にその名を轟かせています。また最近では、テメル政権の諮問機関「経済開発審議会」委員、サンパウロ州観光審議会委員なども歴任され、活躍されています。

日 時: 2017年3月8日(水) 12:00~14:00 参加費: [会員]4,500円 [非会員]5,500円

場 所:ラ・ロッシェル山王店

住 所:千代田区永田町2-10-3 東京キャピタルタワー1階

雷 話: 03-3500-1031

交 通:地下鉄銀座線,南北線,溜池山王駅5番出口より徒歩3分

間もなく募集開始します

ポルトガル語春期講座 4月開講予定

充実した講師陣により「初心者コース〜上級コース」まで全5コース開講予定

これからポルトガル語を学びたいとお考えの方、覚えたポルトガル語を生かしスキルアップをしたいとお考えの方、是非ご参加ください。

講座詳日程・詳細は、協会HPをご覧ください。

日本ブラジル中央協会ウェブサイト http://www.nipo-brasil.org

当協会の隔月発行の機関誌「ブラジル特報」及びホームページへの バナー広告掲載企業を募集しております。 広告掲載にご興味がある企業は、協会事務局までご連絡下さい。

――― 皆様のご入会、心よりお待ちしております・

^{法人・個人} 新規会員募集中

会員数 2017年2月現在 法人会員 122社 個人会員 292名

当協会の活動目的「日本・ブラジル両国間の相互理解、友好関係の促進に寄与する」 にご賛同・ご支援頂ける方に、会員となることをご検討いただければ幸いです。

会員特典

- 1. 協会会報「ブラジル特報」の無料配布 隔月発行、年6回配布
- 2. 会員価格にて、講演会等のイベント、ポルトガル語講座に参加できます(会員限定イベントへも参加いただけます)
- 3. 会員交流懇親会へ参加いただけます
- 4. ホームページにて、会員限定情報をご覧いただけます

年会費

入会金は不要です

法人会員 1口 20,000円 / 個人会員 1口 10,000円

お申込みは こちらから 日本ブラジル中央協会ウェブサイト

http://www.nipo-brasil.org 日本ブラジル中央協会 検索



スペイン・中南米との架け橋として20年 スペイン語・ポルトガル語のイスバニカ

www.hispanica.org

ことばを学ぶ人にも、ビジネスマンにも、高品質で充実のサービスを提供いたします

通訳 翻訳

ビジネスから文芸まで経験豊富な プロがクオリティの高いサービスを

取扱い言語:スペイン語・ポルトガル語 英語・フランス語・ドイツ語 イタリア語・ポーランド語

語学スクール

コースも充実の溜池山王教室

www.hispanica-academia.org

中南米の情報提供

スペイン通信社EFEの情報をもとに 中南米の最新ニュースを日本語で

- · 中南米経済速報 (週刊) ・政治・治安情報"CRONICA"
 - (月~金の毎日)

初心者はもちろん、中・上級者向け

- 通信添削
- ・オンライン※ポルトガル語は通学のみ

企業語学研修

ニーズに合わせた効果的な研修

粒ぞろいの講師が、ビジネスを成功に 導く語学力習得をとことんサポート。実 践的なコミュニケーション力を最大限ひ きだすレッスンをアレンジします。

書籍の執筆・編集

赴任、出張にはこれ!

安心のカナ発音



スペイン領袖でのビジネスシーンで 約2400掲載

ミニマム文法やミニ辞 典も掲載。 三修社刊

(有)イスパニカ 〒107-0052 東京都港区赤坂 2-2-19 アドレスビル 1F(銀座線・南北線「溜池山王」8番駅出口前) Tel.03-5544-8335 Fax.03-5544-8336 hola@hispanica.org







ブラジルへのご旅行・出張は 創業 1979 年のアルファインテルにお任せください。

アルファインテルは南米系旅行会社で唯一の国際航空運送協会 (IATA) 公認代理店です。

航空会社との直取引につき、料金、座席確保に自信があります。

主要取扱航空会社:ユナイテッド航空、デルタ航空、ルフトハンザドイツ航空、エールフランス航空、エティハド航空、エミレーツ航空、カタール航空、アエロメヒコ航空、タム航空、ラン航空、アルゼンチン航空、ゴル航空、コパ航空、アヴィアンカ航空

アルファインテルはブラジル総領事館(東京、浜松、名古屋)の登録業者です。

観光や短期商用はもちろん、永住権取得や技術支援などの長期ビザもお任せください。

ご旅行・ご出張の際の現地のホテル、ガイド、車輛の手配も実績ある弊社にお任せください。

株式会社アルファインテル

(本社) 東京都港区新橋3-8-6 大新ビル3階

観光庁長官登録旅行業 第1835号 社団法人日本旅行業協会正会員/OTOA正会員

TEL: 03-5473-0541 FAX: 03-5473-0540



アルファインテル







e-mail: info@alfainter.co.jp



鉄は、機能的な素材です。強く長寿命でどんな形もつくることができ、古くなったら取り替えも利く。スクラップになっても、何度でも新しい鉄に生まれ変わります。新日鉄住金は、鉄のライフサイクルを見つめ、より錆びにくい鉄など、さまざまな可能性を追求。原材料から環境負荷の少ないものを選び、多くのエコプロダクツも開発してきました。一説では、鉄はその強度もまだ20%程度しか発揮されていないといわれています。もっとロングライフで、もっとエコロジーな鉄へ。私たちは世界最高の技術力で、秘められた鉄の可能性を引き出していきます。

鉄の「可能性」を考える。私たちはライフサイクルで環境を考えます。

世界の鉄へしんにってつすみきん

